

事例
17

あの企業はこう使っている!

事例に学ぶIT・IoT導入

四国マホービン株式会社

地域の小売業へ家電商品を中心に卸売を行なっている企業。現在は卸売事業のほか、卸売専門のネットサイトや大手モール型ECサイトの小売店舗運営のほか、ギフトショップや介護サービス事業など幅広く手掛けています。



四国マホービン株式会社

〒761-0113
香川県高松市屋島西町2491-18
TEL 087-841-5888
HP <http://tvc-net.jp/>

なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「ウチの会社で、どう使ったらいいかイメージが湧かない...」。
そんな皆さま必見のコラムです。
高松のIT・IoT先進企業（リーディングカンパニー）が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載で紹介いたします。
第17弾は、四国マホービン株式会社。代表取締役の上村 晃二さん、通販事業部の井下 哲さんにお話を伺いました。

アナログな在庫管理を

見直せたからこそ「今」の経営がある

アナログな在庫管理と
属人化した現場

卸売の傍ら複数の大手モール型ECサイトへ小売店舗を出店する四国マホービン。卸売と小売共通で登録商品は約1万種類以上、約1千種類の在庫を確保しています。ECサイトの運用は過剰在庫による経営圧迫や欠品による販売機会のロス、信用下落のリスクから在庫管理が重要ですが、同社では数年前まで、担当者の勘や記憶、経験を頼りに在庫を管理していました。

管理体制を懸念し
システム導入に踏み切る

ECサイトの出店が増えるにつれて、業務の属人化とアナログな在庫管理体制は大きな課題に。「日々、変化する在庫状況を把握するため、1日に何度も事務所と倉庫を往復し、在庫僅少商品が見つかれば入金済みのお客さまから出荷するなど、その場しのぎで現場を回すことが常でした。また、商品登録の際には各ECサイトに同じ内容を手入力する必要があり、その手間はかなりの負担でした」

在庫管理システム導入で
属人化解消&業務効率UP

同社が導入したのは、主に在庫や受注の管理、商品の登録などECサイトを一元管理できるシステム。各店舗間の在庫数が自動で更新され、リアルタイムで状況を把握、対応することができ、導入後は、システム画面を見るだけで誰でも正確に在庫状況を確認できるようになった。手間や時間がかかっていた非効率な作業もなくなり、業務効率の向上や属人化解消が実現しました。「配送方法や決済方法など、利便性強化のために顧客やモール側から求められる制約は、年々増えています。システム導入がなければ、それらに対応する余裕もなく顧客が離れていたかもしれませぬ」と上村社長。今後もシステムの充実を図り、売上拡大や集客力アップを目指すそうです。

図解

複数チャネルの在庫数自動反映で
非効率な手間を省く

